

Ibara City Hospital

# 井原市立 井原市民病院

### 診療科目

内科・小児科・外科・整形外科  
産婦人科・耳鼻咽喉科・眼科・  
泌尿器科・放射線科・  
リハビリテーション科

〒715-0019 岡山県井原市井原町1186番地

TEL.0866-62-1133 FAX.0866-62-1275

E-mail:byoin@city.ibara.okayama.jp

発行責任者/工藤 尚文

## 年頭のご挨拶

院長 工藤 尚文



明けましておめでとうございませう。本年は井原市が美星町、芳井町と合併することになり、皆様には新しい井原市の誕生と相まって、希望に満ちた新年をお迎えになったことと存じます。

私が井原市民病院にまいりました。二年が経過しようとしております。この間、わが国の病院、特に地方の公的病院は、今まで経験したことがないような難しい問題に直面しております。主な原因は、医師数が平成十六年から急激に減少し、以前に井原市民病院の改築計画が進んでいた頃には、予想もなかったことが起こっていることです。

厚生労働省と文部科学省とが、かねてから計画していた改革案、すなわち医科系大学出身者は医師国家試験合格後に、二年間の臨床研修をしなければならぬという法案が、平成十六年四月から施行されました。わが国の医科系大学から、毎年八千人の学生が卒業し、国家試験合格後はそのまま医師として活躍していましたが、この新しい制度が実施されて以来、二年間は医師の誕生が皆無となりました。

見方を変えると、わが国は二年間に増加する一万六千人の医師数をゼロに抑制したことになりました。そして、この改革案の延長線上には、今まで医師の人事は主として大学医局が行っていましたが、将来的には医師人事は医師自らの判断で決定しなければならぬことになりました。

医師人事が大学医局から離れることは、地方の中小病院を希望する医師数が減少してゆくことを意味します。今までの大学医局は、住民の健康を守るために、過疎化した地方病院でも、敢えて医師派遣を行ってまいりました。しかし、後の医師の就職が自由競争、市場原理に任せられるとなると、地域医療はやがて崩壊することになるでしょう。

現在、井原市民病院では不足している医師数をカバーする対策として、特に内科系の外来診療は主として岡山大学付属病院から派遣される出張医師をお願いし、どこに必要医師数を維持しております。特に、当院では地元出身の常勤医師は少なく、大学医局の方針で

一時的に勤務している人がほとんどです。今後、当院で固定化した常勤医師数を増やしてゆくためには、赴任してくる人達が、井原は本当に好い所だったと、満足して住んでいただけるような環境を造ることが必要です。病院職員の皆様あるいは市の関係者は、その辺りの事情を察察していただき、常勤医師の固定化にご協力下さいませうようお願いいたします。

また、当院にお勤めの医療従事者の皆様方には、医師たちと心の底から喜怒哀楽を共にし、培われた友情や人間関係を大事にして頂きたいと存じます。このようなことは、外部から当地に赴任した医師のみならず、井原市で働かされている全ての職種の人に対しても言えることでしょう。しかし、現時点において医師不足という、市民から最もクレームを受ける立場に在る病院事業管理者代理として、また院内の診療内容に責任のある院長の立場として、敢えて皆様方をお願いしたいことがらです。

## 新年を迎えて

看護部長 平井 千枝子



新年明けましておめでとうございませう。昨年は、日本を縦断するような数多くの台風や新潟県の大震災など、私達を悩ませる災害の多い年でした。

新装なった井原市民病院も、はや一年を迎えようとしており、改革に続き引越という大きな仕事も、職員全員が協力し無事に成し遂げることができました。このように新しい病院で仕事ができるのも、井原市をはじめ関係者一同が大変に努力して下さった結果であること、改めて感謝申し上げます。

また、新病院への引越し直後は全国的に病院のレベルを判定して貰うための、大きな目標であった病院機能評価を受審する事も出来ました。今後の病院改革には、まだまだ多くの課題が残っていますが、こ

こまでくることができたのも、院内各部署の職員が協力・協調し「他力本願」ではなく、成果に関心と責任を持った人間関係を作ってきたからこそできたのだと思います。さらにこの達成感は何ものにも代えられない喜びだと思えます。

今後は職種間の連携を保ちながら「私達の病院」、「地域の病院」という意識をしっかりと持ち、お互いに仕事をして行く必要があると思えます。さて、今年の抱負について考えていた時、ある雑誌に次のようなコラムが書いてありました。「患者さんが医療者に願う、小さくて大きなこと」とは「医療者にあって当然だ」という幻想にも似た期待感が存在しているということでした。そして、その期待が裏切られると、患者さんは一気に深い不信感に陥るといふことです。このよ

うな過度な期待と深い不信感が一人ひとりの心のなかに潜んでいます。このコラムを読んで思えたのは、患者さんが望む医療は「安心・安全・納得」できる医療につきると思えます。また「この地域にこの病院があつてよかった」と思えるだけでなく、病院の職員との関わりが「出会いがよかった」と思える医療者になることだと思えます。

そのためには、医療に携わる者はプロとしての心構えを持って、自分自身で選んだ仕事を成し遂げて行かなければならないと思えます。私は今年もこのような目標を持って、がんばっていききたいと思えます。

## 平成16年度リハビリテーション科の活動を振り返って

リハビリテーション科医長 藤井 俊宏

藤井 俊宏

新年明けましておめでとうございませう。平成16年のリハビリテーション科の活動を振り返ってみます。

1月31日 日本リハビリテーション医学会研修施設の認定を受けました。現在岡山県には12の研修施設があり、市立病院としては県内唯一です。

3月22日 井笠地域リハビリテーション広域支援センターの指定を受けました。広域支援センターは老人保健福祉圏域ごとに1ヶ所指定するもので、岡山県では当院を含め9ヶ所が指定を受けています。

6月1日 医療法に基づく総合リハビリテーションA施設として業務を開始しました。これは医療設備や医療スタッフの充実を図ったことにより取得したものです。

6月29日 広域支援センター事業の一環として、第1回研修会を当院で開催いたしました。岡山大学総合リハビリテーション部千田益生先生をお招きし、「リハって何だろう」というテーマで約140名の出席がありました。

7月7日 ぐらしき作陽大学の音楽療法実習生の受け入れという形式で5階デイルームにて音楽療法を開始しました。たまたま倉敷市玉島の柴田病院で音楽療法を実施しているという話を聞き、事務部長木、リハ科中島、私の3人で柴田病院まで見学に行き、当院でも実施の運びとなりました。

9月1日 転倒予防教室を開始しました。週1回全8回コースでマシントレーニングを中心に行いました。理学療法士桶間を中心にリハスタッフ全体でサポートし、無事終了しました。

10月21日 芳井町機能訓練事業に言語聴覚士古角が出張しました。広域支援センター事業の一環としてしばらく毎月出張する予定です。

11月10日 広域支援センター事業の一環として、第2回研修会を笠岡グランドホテルで開催いたしました。川崎医科大学リハビリテーション科石井雅之先生をお招きし、「岡山県地域リハビリテーションの過去現在未来」というテーマで約100名の出席がありました。

他にもいろいろありましたが、紙面の都合により省略いたします。市民病院のリハビリテーション科は発展途上の段階です。私自身を含めスタッフ一同より精進しなければなりません。今後とも病院職員皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げます。



石井先生と当院スタッフ



音楽療法



転倒予防教室

### 井原市民病院基本理念

1. 患者の権利を尊重し、情報提供によって患者が納得出来る医療を行い、地域住民に信頼される病院を目指します
1. 医学の進歩に相応した高いレベルのしかも安全管理が行き届いた医療が行えるよう、日々研鑽に励みます
1. 地域医療体系の一環として相互の連携を密にし、機能分担を考慮した効率的な医療を提供します
1. 医療を受ける側の身になって考え、暖かい心の手を差し伸べることを忘れません

### 井原市民病院職員の誓い

1. 私たちは、市民の生命（いのち）と健康を守り、心のこもった診療をいたします。
2. 私たちは、質の高い医療を目指し、日々研鑽いたします。
3. 私たちは、病める人の身になって考え、最善の理解者となるよう努力いたします。



### 新任紹介

小児科医長 堀川 定儀

平成16年10月より井原市民病院小児科に勤務している堀川定儀と申します。勤務して3ヶ月が経ちましたが、病院にも慣れました。寒さ厳しい冬はインフルエンザなど特有の病気が子供たちを襲う可能性が高くなりますが、少しでも近隣の子供たちの手助けができるよう励みたいと思っております。

医師一人、看護師一人での診療なのですが、病院関係者、患者様にご迷惑がからぬよう頑張りたいです。どうか宜しくお願いいたします。



### 自動再来受付機・オーダーリングシステムを導入して

市民病院のハード（建物）が新しくなると同時にソフト面（受付の方法等）も新しい再来受付機2台を設置して、患者様のサービス向上に努めてまいりました。

この間、再来受付機の取扱いについて多少の混乱又はご迷惑をお掛けしましたが、お陰をもちまして順調に患者様に受け入れられていたと思っております。

この自動再来受付機は3ヶ月以上来院されていない患者様については、受付出来ないで総合カウンターで保険証を確認させていただき受付をしております。

今後も受付業務の効率化、サービス向上に力を注ぐ所存ですので、よろしくお願い致します。

また、平成16年7月下旬からオーダーリングシステムが稼働し、患者様の待ち時間短縮に役立っているところで、導入に際しましては、機種選定、コンピュータの入力練習、患者様の導線確認など医師はもとより院内職員も丸ごと、新しいシステム導入を進めてきました。

現在では、大きなトラブルもなくスムーズな運用が図られており、病院といたしましては大変喜んでおります。

患者様から「病院はよくなりました、中身が...」と言われたいように、いつも患者様の立場になって考えるとともに患者サービスを院内全体で推進し、市民の信頼にこたえられる病院を目指します。



### 音楽療法

音楽療法とは、音楽のもつ生理的、心理的、社会的働きを用いて心身の障害の回復機能の維持改善、生活の質の向上、行動の変容に向けて音楽を意図的、計画的に使用することです。当院でもくらしき作陽大学 権藤尚子さんにより実習という形ではありますが、5階療養病棟の患者様を対象に7月から12月の間、計20回毎週水曜日14時から約1時間、約15人程度、歌、軽い体操、打楽器を使用し音楽療法が行われました。

ピアノを使用し歌を歌う形を中心に、毎週いろいろな内容でセッションが行われました。

患者様から「水曜日が楽しみです」という感想話される方、あるいは日頃見られないような表情が見られたり、音楽療法の効果が短期間でも療養生活に何らかのよい影響があったと思われまます。

音楽療法実習されたくらしき作陽大学 教育音楽学科 音楽療法 専修 4年 権藤尚子さんより実習を終えた感想を頂きました。

井原市民病院で実習して

私は、くらしき音楽療法を勉強している学生です。今年の7月7日の七夕の日から、井原市民病院で実習を始めて、早くも12月で20回を終えました。

初めは新品のグランドピアノを前に、不安と緊張の連続でした。しかし、職員の方々の協力と患者様の温かい笑顔に支えられて、音楽療法を通じて皆さんのことを学ぶことができました。

一番印象に残っているのは、「秋祭」をテーマに、大きな和太鼓を使ってセッションをした時です。日頃目に見えない大きな楽器を前に、興味深そうに楽器を叩かれる患者様の姿がとっても印象に残っています。今でも忘れられません。

音楽療法は、まだ駆け出しの段階であり、社会一般のみならず、医療機関でもまだ十分には知られていないのが現状です。私自身も実習しながら「本当にこれでいいのだろうか」と悩むことが多かったです。

しかしセッションを行う中で、患者様の笑顔や思いがけない反応を目にしたとき、鑑賞の際に涙を流して聞いてくださったとき、「音楽療法をやったよかった」と心から思いました。音楽が患者様に何かしら良い影響を与えていることができたなら、それは私にとって大きな喜びであり、これからの希望にもつながります。

最後にこのように皆さんのことを学ばせてくださった患者様のごくも熱心に音楽療法に取り組み、指導してくださった職員の皆様改めてお礼申し上げます。ここで学んだことを糧として、これからも音楽療法について学びたいと思っております。



### 検査室だより

平成16年7月半ばよりオーダーリングシステムが始まりました。それに伴い、当検査科では臨床検査システムと生化学自動分析装置（日本電子BM1250）の新機種を導入しましたので、ご紹介したいと思います。

この機器では、肝機能・腎機能・脂質（コレステロール等）・血糖等32項目の血液検査を測定しています。

特徴として、前機種に比べ、試薬量の減量化、精度の向上により高値まで測定可能、結果が出るまでの予測時間がわかるe.t.c. 今後、PSA・フェリチンなどの検査項目も増やしていきたいと思っております。

また、オーダーリングシステムにより、以前のように入患者様が依頼伝票を持ち歩いたりすることもなくなりました。検査結果が即座に各科の医師のパソコン画面におくられるため、待ち時間も短縮されるようになりまします。

いまだ以上に、より迅速で、より正確な検査情報をお届けするよう検査室一同、努力してまいります。検査に関してわからないことがあれば、遠慮なくお聞きください。



### ミニ・コンサート ソプラノ&ピアノ

平成16年10月22日（金）午後2時から5階療養病棟にて富山育美様、小野みゆき様ご姉妹によりピアノ演奏、ソプラノ独唱にてボランティアをして頂きました。

主催はハンドベルで当院へボランティアして下さっているベルフレンド様のご依頼で、少しでも入院患者様の癒しになればということでご姉妹へお願いして下さり、今回のボランティアが実現しました。

ご姉妹は、西江原ゴルフクラブ（コーラスグループ）のご指導をされています。

5階療養病棟の患者様、ご家族を中心に各病棟から患者様、約40名ほどの参加がありました。曲目は左記の記載のとおりです。

みなさんに馴染みやすい曲をピアノ演奏とともにソプラノ独唱があり、とても美しい歌声でした。また韓流ブームの火付けになった冬のソナタのテーマソングをピアノで演奏され職員も堪能させて頂きました。

ボランティア終了後の感想として、患者様からは、素敵な声で楽しい時間が過ごせました。

ご姉妹からは、みなさん熱心に聞いてくださり少しは心が癒されればよかったです。また機会があればボランティアに来たいです。とのことでした。

お忙しい中、ご奉仕頂きほんとうに有難うございました。

- 曲目
- 1 この路
  - 2 四季のメロデー
  - 3 『冬のソナタ』より
  - 4 さとうきび畑
  - 5 故郷
- ・どこかで春が  
・夏は来ぬ  
・里の秋  
・冬景色
- ・忘れないうで  
・マイ・メモリー  
・はじめから今まで  
・さとうきび畑



### 糖尿病教室

糖尿病患者様とご家族を対象に、糖尿病教室を開催しました。

日時：平成16年11月25日（木）  
13：30～15：00

「食事の上手なとり方（年末・年始編）」  
管理栄養士 江原 陽子

「糖尿病と目の病気について」  
眼科医師 岸本 典子

「糖尿病の運動について」  
理学療法士 田村 幸恵

外来・入院患者様あわせて18名の方が参加されました。

今回は、自宅でできる軽い運動を、実際に体験していただき、大変好評でした。

今後も、さらに充実した内容を企画していききたいと思います。ご参加ください。



### 産後のサービス

2F病棟では、現在出産で入院された患者さまに、御祝い膳、シャンプルー・プロ無料サービス券発行のサービスが行われています。

御祝い膳では、洋食一点、和食二点より患者さまに選択していただいています。現在都合にて洋食点のみとなっています。産後5日目をめどに昼食に自室にワゴンで運ばれ、家族や友人とともに御祝い膳を楽しまれています。

「患者さまより」  
「御祝い膳、とてもおいしく頂きました。1人前ということでしたが、一人で食べるには少し多く、主人と食べて丁度よい量でした。洋食をいただきましたが母乳が出ず私には肉類が多く、少し食べるのを調節しながらいただきました。美味しいお料理、ありがたかったです。」

シャンプルー・プロ無料サービス券は、院内2F美容院「アプレ」にて利用していただいています。「アプレ」スタッフに何点か質問に答えていただきます。

Q、無料サービス券についてお聞きしたいのですが、  
A、とてもいいことだと思います。実際に来店される産後の方々もいろいろに言われています。とくに、帝王切開だった方で、頭が洗えない方には喜ばれています。

Q、無料券を持参される患者さまに特に気を付けたら、心がけられていることがありますか。  
A、産後間もない方で、円座が必要な方とか、抜け毛の多い方は気を付けています。

Q、セールスポイントはなんですか。  
A、入院患者の方に対してはやはり、入院時に利用できる一番近いサロンということが一番のセールスポイントです。カット・カラー・パーマをはじめヘアエステというトリートメントコースもありません。特にシャンプルーを長い間使っていない方の頭皮というのは、とても汚れが貯まっています。普段のシャンプーだけではとれない汚れが度々グリーンな状態になります。爽快感もあり、スリキリするので、そのコースが特にお勧めです。



### 消防訓練

11月25日（木）井原消防署立会いのもと、消防訓練を実施いたしました。

5階テイルームからの出火を想定しての訓練でした。最後には消火活動の実地訓練も行われました。



### 院内感染講習会

さる10月27日（木）に、院内感染対策講演会が開催されました。講師に山本裕基様をお招きして、院内感染とその対策と題して講演が行われました。

院内感染に対する最近の現状や、CDCによる標準予防策等、具体的な事例をまじえてお話いただきました。日々の業務を見直し、感染対策を再確認するいい機会となりました。

院内感染対策委員会



### 神戸・有馬温泉ツアーへ行ってきました!



### 編集後記

久方ぶりの発行となりまして、深くお詫び申し上げます。今年度からまた、皆様情報発信していきたいと新聞編集委員一同、心機一転がんばる所存でございます。原稿依頼等、ますますのご協力よろしくお願い致します。